

みくびだより

平成11年12月1日

御首神社社務所



御挨拶

拝啓 師走の候、皆様方におかれましては愈々御健勝の事とお慶び申し上げます。

本年八月、天皇后陛下におかせられては、去る平成五年の北海道南西沖地震の災害復興状況ご視察のため北海道に行幸啓になられて奥尻島の慰霊碑にご献花遊ばされ、遺族を御慰問になられました。

この震災以降も様々な災害・事件が発生し我々の記憶も薄れがちなところ、両陛下には御公務でお忙しいにも関わらず時間をお割きになられ、当地に住む人々を励まされるお姿は、常に我々国民の暮らしを案じておられる両陛下のお気持ちの現れであり、誠に有り難い極みであります。

今年、台風十八号が長雨続きの日本列島を襲い各地に様々な災害をもたらしました。岐阜県では飛騨地方に至る主要道路がほとんど寸断され大きな痛手を蒙りました。国外においてはトルコ大震災、又去る九月二十一日には古来より日本との関係が深い、隣国台湾で大地震が発生し多数の犠牲者が出ました。先の阪神・淡路大震災の折、多大な支援を受けたこともあり我が国もいち早く復旧活動に参加し、その成果を発揮したことは周知の通りであります。今後はより効果的な義擲活動の展開を押し進めて頂きたいものと念願致します。

さて、来る平成十二年は御首神社境内社末廣稻荷神社の御鎮座五十年を迎えることとなります。この慶事に当たり鳥居・灯籠等を新調致し、益々大神様の御神徳を受けていただけるよう努力いたす所存でございます。何卒御奉賛賜りますようお願い申し上げます。

最後に皆様のご健勝とご多幸を祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。

宮司 三浦 篤

「人間は誰がつくったか」

古代の人は、人間は神によって創られた物であると信じて少しも疑わなかった。しかし現代ではそのような考えを否定する人々が増えており、中には人間が神と云うものをつくり出したのだと云う者もおります。

地球上の物体は生物と無生物とに大別され、無生物を一般に自然と呼んでいます。この無生物、即ち自然は人間がつくったものではないことは誰でも認めるでしょう。宇宙や地球、地球の中でも海や山や木、空気や水などこれらをつくったものが人間でないことは確かであります。

では生物の米や野菜、果物などはどうでしょう。これらは普通人間が作ると云われますが、これらのものでさえ人間が作ったとはいえないのです。



米の元は稲の種です。稲を人間が作ることはできません。稲は地球上に人間が住むようになる前から地球上に生えていたものと考えられ、その稲が食用になると云うことが解って栽培するようになったのです。水田を耕し肥料を施し雑草を取り除いたりして手入れをし、秋には沢山の立派な稲穂が収穫できます。

つまり、人間は稲の生長の手助けをするのであって稲そのものを作ることとは出来ないのです。

「古事記」や「日本書紀」によりますと、この稲を栽培することによって国民が永久に生きて行くことが出来るようにと、神代の昔天孫がご降臨になった時、天照大神様から授かったものであるとされているところを見ても、明らかに神さまが創られたものであることが分かります。

野菜にしても果物にしてもそれぞれ品種を改良し、植え付けをして肥料を施し害虫退治や草取りなどの作業をするだけで、決して人間が作ったとは云えません。

それでは現代の環境汚染の一つといわれているビニールとかプラスチックや合成樹脂などの工業製品はどうでしょうか。これらはいずれも石油など自然の原料に人工的な力を加えて化学変化を起しているものであって、やはり人間は一種の手助的な仕事をしているに過ぎないのです。

ところで人間が作ったのでなければ誰（いや何物）が作ったのでしょうか。どう見ても神さまが作ったと解釈せざるを得ません。

因みに神道では天地を始め自然現象は全て神の働きによるものと考えられており、その働きに感謝し、報恩の誠を早くするのが神道の一貫した理念であります。

そこで人間は一体全体だれが作ったのでしょうか。男性と女性が結婚をすれば子供が出来ることから、人間は人間がつくるかのようにはみえます。しかし、よく考えると男性が女性と結婚して子供をつくると云っても、ただ精子と卵子の結合をはかるだけのことであります。お腹の胎児が母親の体内から栄養を取り、十月、十日間体内

で成長すると生まれ出てくるのですが、その間、頭が出来そして目や鼻や口が出来、手足の指が分かれて爪ができる。それは別に人間が直接手を加えてつくる訳ではありません。全てが一定の法則（言い換えれば神のはたらき）に従って親の意志とは全く関係なく胎児自身が成長していくのであって、父親とか母親の立ち入る世界ではないのです。

もし人間が人間をつくるとすれば自分の子供の性別はもとより目鼻、口、顔や姿形も髪の色も全てが自由に選択して作り出すことができ、死の時期までも操作することが可能となります。こんなことが許されるならば世の中は既製品のような一定の型にはまった人間ばかり出来るといふことになり、世界中が大混乱になるのは明らかです。神に全てを任せ神に頼り切っているからこそ秩序が保たれ世の中が平和で安心して暮らせる打です。

人間は親から生まれることは確かな事実ですが、その親はどこから生まれてくるかと云えばやはりその親から生まれて来ます。

このように無限に遡っていくと最後には一組の夫婦に辿り着く訳です。その夫婦こそ人類の始まりの祖、伊那那岐・伊邪那美の神さまと云うこととなります。ですから人間は神によって創られ、神から生命（魂）を与えられたと云うことになってきます。

そうしますと我々は神の世界に住まわせて頂き、神の作られた食物を食べ又活用して生きていくことになり、人間の生命を保ち快適な生活の出来ることについて、自ずと神に感謝の心が湧いてくる筈であります。

ところが、悲しいかな世の中の人間は、何不自由なく快適な生活が長く続くとそれが当然だと思ひこみ、つい感謝の心を忘れて不平不満の心遣いをし易いものであります。

我々は毎日の慌ただしい生活の中にも、時には心を静かに落ち着け、先祖代々から受け継いだ神々に對する敬虔な気持ちを今一度思い起こし、報恩の毎日を送りたいものです。

禰宜 上松 雅之

ちよつと一言

こんにちは、社務所より一言御案内申し上げます。

参拝者の皆様から「神棚は家屋のどの位置に、どのようにお祀りすればよろしいか」と云う質問を受けることがありますので、今回は神棚をお祀りする場所についてご説明申し上げます。

従来の日本建築での神棚の場所は、和室を中心にして南向き又は東向きに、そしてなるべく神棚の上を通らない所を選んでお祀りして頂くのが理想であります。

近年は洋風住宅が徐々に増えてきており、家族の団らんが和室からリビング（居間）になりつつあるようです。中には和室が全く無い家屋もございます。

お祀りするにあたって基本的な事は、ご家族の皆様が毎日お参りし易い場所、お供え物の上げ下ろしをするのに便利などところが宜しいかと思ひます。

又、二階建て以上の家屋で、構造上止むを得ず神棚の上を通られる場合は天井に「雲」と云う字を書いた紙

を貼って頂き、せめてものお許しを乞うといった方法もございます。特に家屋を新築された場合に神棚を設けられる時は慎重に検討して頂きますようお願い申し上げます。

権禰宜

谷口 哲也



祭事報告

▼西宮神社例祭（相殿） 七月十七日午後三時
 ▼末廣稻荷神社例祭 八月八日 午後三時
 ▼夏越大祓 八月八日 午後三時半

真夏の太陽の下、多数の氏子崇敬者の見守る中、厳肅に斎行されました。夏越を象徴する有名な和歌に、「水無月の夏越の祓へする人は千歳の命延ぶというなり」とあります。日々の生活の中で知らず知らずのうちに、心と身体に付いてしまった罪や穢を祓い落とし、いつまでも健康で長生き出来ますようにと詠われています。

神事を終え、続いてお祓所役を先頭に宮司以下祭員・総代・参列者の順に左右左と茅の輪をくぐり、拝殿前にて二礼二拍手一礼にてお参りされ神事は終了致しました。

▼長寿祈願祭 九月十五日 午後四時
 ▼七五三参り 十一月一日～三十日

子供の三歳・五歳・七歳といえ、まだ小さな区切りの年齢ではありますが、昔はこの年齢まで無事に成長する事が難しい時代もありました。七五三詣では無事にこの年齢を迎えられたことを神様に感謝申し上げ、これから先の健やかな成長を願うものであります。

現在もこの人生儀礼は受け継がれ、当神社の境内も週末ともなると、大神様の御守護をお受けになる家族連れで賑わい、記念撮影やコリントゲームに興ずる子供達で一杯でした



▼崇敬会大祭 十一月三日 午後二時
 崇敬会会員のための年一回の大祭です。御首神社崇敬会は、当神社に参拝される皆様の中で、崇敬の篤い方々が沢山ご入会されております。

当日の祭典は多数の参拝者を迎え、会員の皆様の無病息災・家内安全・生業繁盛並びに子孫の繁栄が祈願され、参拝者全員に金幣を献つていただき、一人一人が真剣に手をあわせておられました。

▼新嘗祭 十一月二十三日 午後三時
 権禰宜 大野 弘樹

末廣稻荷神社

五十年記念事業にご奉賛のお願い

当神社本殿の東にお祀りされている末廣稻荷神社は、昭和二十六年にご鎮座になり、来る平成十二年には五十年目を迎えることとなります。

長年の間風雪に堪えてきましたが、近年は老朽化も進み景観が損なわれるようになりました。つきましてはこの節目の佳き年に鳥居灯籠等を新調致し、ご神域の整備を行いたいと存じますので、皆様のより多くのご奉賛をお願い申し上げます。

事業の概算

- 総額 老千五百万円
- ご神域の整備
 - 塀の改修
 - 鳥居・灯籠の新設

尚、奉賛金の申し込みは、まだ余裕がございますので、社務所へお申し込み頂きますようお願い致します。



家内安全祈禱について

農耕民族である我が国は、古くよりお米を始め農業を中心として発展してまいりました。生活を営んで行く上で此の仕事に携わる人は、自然災害を逃れ、豊作が続く貯蓄も増え、精神的にも豊かな日々を送る為、その時に祭祀（祈年祭・春祭・雨乞祭・農休祭・秋祭・新嘗祭等）を執り行い、神々に五穀豊穰・家内安全・子孫繁栄・生業繁盛等が祈願されてまいりました。



現代では通信産業のめざましい発展によりパソコン業界をはじめ新しい職業が生まれてきております。

一方では、このめまぐるしく変化する生活環境や社会情勢に対応出来ず、店を閉めたり従業員削減を余儀なくされているところがあります。このような環境の中、従来通りの感覚で生活を営むことは難しい一面もあるかと思われまます。

世の中の経済は絶えず変動し、大きな波が繰り返します。苦の未来には楽の世界が開けて来ることは間違いありません。「幸・不幸」は糾える縄の如しと云います。幸福な時にこそ手綱を引き締めおごることなく、不幸の芽を摘み取るよう心がけましょう。

「苦しい時の神だのみ」の諺がありますが、困ったことが起こる前に信仰していれば大事に至らず立ち直りも早くなるというものです。師走も後半になりますと、どの家庭でも大掃除に始まり、新しいお神札を神棚に納め、お餅をつき、注連縄、門松等を飾り、お正月を迎える準備が進められます。

当神社では元旦の午前0時に新年を迎え国の隆昌と世界の平和、氏子崇敬者の繁栄と幸福を祈り元旦祭が斎行され、引き続き家内安全等の御祈禱が執り行われます。

新しい年に新しい気持ちで、家族一人一人が健康で楽しく幸せな生活を送って頂くためにも是非御祈禱をお受け下さい。

権禰宜 高田 豊彦

崇敬会入会のご案内

御首神社崇敬会は、昭和六十二年の御遷座を契機に結成されてより、全国各地の崇敬者の皆様の無病息災・家内安全・生業繁盛並びに子孫の繁栄を、御首の大神様に祈願致してまいりました。

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ますので御参拝の折、社務所にお申し出下さい。

尚郵便にても受付出来ますので申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます会員の特典（抜粋）

- 一、誕生日には特別祈禱が行われ、神符が授与されます。
- 一、春の例大祭、秋の崇敬会大祭にはご案内申し上げ、大祭特別祈禱神符及びお供え等が授与されます。
- 一、夏越・年越大祓にはご案内申し上げます。祈禱致します。

新入職員御挨拶

この度、御首神社に奉職させて頂くことになりました岐阜県岐阜市出身の大野弘樹と申します。まだまだ勉強不足の身では御座りますが、日々神明奉仕に励む所存ですので崇敬篤き皆様方の御指導、御鞭達の程宜しくお願い申し上げます。



権禰宜 大野 弘樹

祭事案内

▼年越大祓 十二月三十日 午後三時
 皆様が今年下半期の間に知らず知らず受
 け犯した罪穢を人形(ひとがた)に託し、お
 焚き上げして、新しい年に幸福を得むとする
 日本古来の神事です。

▼元旦祭 一月一日 午前零時
 新年に、国家の隆昌と世界平和の恒久、氏
 子・崇敬者の繁栄と幸福を祈願し、引き続き
 諸祈願の祈禱を行います。

▼左義長 一月十五日 午前十時
 一年間各ご家庭で祀られた御神札・御守り
 或いは正月の注連飾り等をお焚き上げする神
 事です。

当日古い御神札や注連縄などを持参されて
 も結構ですが、昨今の環境汚染問題に対応す
 べく、ダイオキシシン等有害物質の発生を抑え
 ようと努めております。ご面倒でも「ビニ
 ル類」はお持ち帰りくださるようお願いいた
 します。

▼浄火祭 二月三日 午前十時
 皆様が奉納された、帽子・祈願絵馬又、御
 祈禱を受けられた方が御神前に献つて頂いた
 金幣串、御祈禱の後お渡しする紅白串をその
 年の厄男が火炉に投じ、忌み火にてお焚き上
 げして皆様の心願成就を祈願する祭祀です。
 神事が終了致しました後も、この日に限り
 帽子等をお焚き上げ頂いても結構です。



▼祈年祭 二月十三日 午後三時

▼御鍛神社例祭 三月十七日 午後三時

▼例大祭 四月二日 午後三時

当神社の一年に一度の大祭です。前夜は氏
 子区域の子供達による、大神様への打ち碇子
 の奉納があります。当日は早朝より子供御輿のご
 巡幸があります。また境内には香具師が所狭
 しと立ち並び、特設舞台では毎年演芸が催さ
 れ、終日賑わいを見せます。

▼南宮神社例祭 五月四日 午後三時

▼お田植え祭 六月 初旬

▼農休み祭 六月十八日 午後三時

権禰宜 馬場 典之

男子 大厄 二十五歳・四十二歳
 女子 大厄 十九歳・三十三歳

厄除開運祈禱

古来より「大厄
 には諸々の災難、
 身体の変調のがれ
 難し」といわれ、
 年回りに当る方の
 みならず御家族に
 までも災禍が及び
 何かとままならぬ
 ことが多くなりま
 す。前後三年間に
 渡り忌み慎まなけ
 ればなりません。
 御祈禱を受け毎日
 を平穩に過しま
 しょう。

		平成11年 厄年に当る生れ年		
		前 厄	本 厄	後 厄
男子	42歳	昭和35年	昭和34年	昭和33年
	25歳	昭和52年	昭和51年	昭和50年
女子	33歳	昭和44年	昭和43年	昭和42年
	19歳	昭和58年	昭和57年	昭和56年

▼本年度崇敬会よりの奉納
 一、御首神社職 一対
 一、末廣稻荷神社幡 十対
 以上有難うございました。

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一二八三の一
 TEL(〇五八四)九一―三七〇〇